

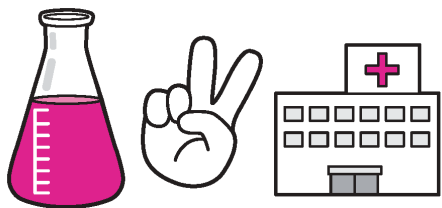
医薬品に共通する特性と基本的な知識

よく出る！

1.

L はラボ V は安全 C 病院

Laboratory Vigilance Clinical



よく出る！

2.

ニューヨーク ショーが見たいな 行こうかな

乳児 幼児 小児 1歳 7歳 15歳

よく出る！

3.

ココモコを 異常に食べる 高齢者

65歳 以上

▶ 新規に開発される医薬品のリスク評価の基準は、以下の通り制定されている。

- ・ GLP (Good Laboratory Practice)
…医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準
- ・ GCP (Good Clinical Practice)
…ヒトを対象とした医薬品の臨床試験の実施基準
- ・ GVP (Good Vigilance Practice)
…医薬品の製造販売後の安全管理基準
- ・ GPSP (Good Post-marketing Study Practice)
…医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施基準

▶ 新生児、乳児、幼児、小児には、おおよその目安として次の年齢区分が用いられている。

- ・ 新生児…生後4週未満
- ・ 乳児…生後4週以上、1歳未満
- ・ 幼児…1歳以上、7歳未満
- ・ 小児…7歳以上、15歳未満

▶ 高齢者は、おおよその目安として65歳以上とされている。

1章-2



分類	成分	作用・特徴	配合薬
サリチル酸系 解熱鎮痛成分	サザピリン	・中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生抑制作用 ・ライ症候群の発生可能性	解熱鎮痛薬
	アスピリン サリチルアミド エテンザミド		かぜ薬 解熱鎮痛薬
非ピリン系 解熱鎮痛成分	アセトアミノフェン	・中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生抑制作用 ・末梢における抗炎症作用は期待できない ・胃腸障害は少ないが、食後の服用を推奨 ・小児の解熱用の坐薬がある	かぜ薬 解熱鎮痛薬
	イブプロフェン		・中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生抑制作用 ・胃腸への悪影響が少ない ・15歳未満の小児に使用しない
ピリン系 解熱鎮痛成分	インプロビルアンチピリン	・中枢神経系におけるプロスタグランジンの産生抑制作用 ・一般用医薬品で唯一のピリン系 ・解熱鎮痛作用は強いが抗炎症作用は弱い	かぜ薬 解熱鎮痛薬
抗ヒスタミン成分	クロルフェニラミンマレイン酸塩	・肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることで、ヒスタミンの働きを抑える	かぜ薬 口腔咽喉薬・含嗽薬 内服アレルギー用薬 鼻炎点鼻薬 外用薬
	クレマスチンフマル酸塩		かぜ薬 鎮咳去痰薬 内服アレルギー用薬
	アゼラスチン		内服アレルギー用薬
	メキタジン		かぜ薬 内服アレルギー用薬
	ケトチフェンフマル酸塩		・肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることで、ヒスタミンの働きを抑える

分類	成分	作用・特徴	配合薬
抗ヒスタミン成分	ジフェンヒドラミン塩酸塩	・肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることで、ヒスタミンの働きを抑える ・抗ヒスタミン成分の中でも特に中枢作用が強い	眠気を促す薬 外用痔疾薬 内服アレルギー用薬 外用薬
	ジメンヒドリナート メクリジン塩酸塩 プロメタジン塩酸塩	・肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることで、ヒスタミンの働きを抑える ・延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える	鎮暈薬
	抗コリン成分	ヨウ化イソプロパミド	・副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げることで、副交感神経の働きを抑える
アドレナリン作用成分	スコポラミン臭化水素酸塩水和物	・交感神経系を刺激し血管を収縮させる ・依存性がある	鎮暈薬
	ベラドンナ総アルカロイド		内服アレルギー用薬
	メチルペナクチジウム臭化物 ブチルスコポラミン臭化物 チキジウム臭化物 ジサイクロミン塩酸塩		胃腸鎮痛鎮痙薬
	トリメトキノール塩酸塩水和物 メトキシフェナミン塩酸塩		鎮咳去痰薬
	ナファゾリン塩酸塩		・交感神経系を刺激し血管を収縮させる
フェニレフリン塩酸塩	・交感神経系を刺激し血管を収縮させる ・依存性がある ・他のアドレナリン作用成分に比べて中枢神経系に対する作用が強い	鼻炎点鼻薬	
テトラヒドロソリン塩酸塩		点眼薬	
プソイドエフェドリン塩酸塩		かぜ薬 内服アレルギー用薬	